

平成29年度 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 花尾 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語, 数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 数学)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 数学A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		数学A		数学B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	24.5	77	6.3	70	22.2	62	6.8	45
全国	24.8	77	6.5	72	23.3	65	7.2	48

(2) 本校の学力調査結果の分析

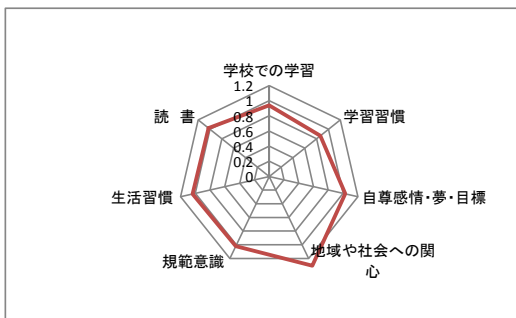
国語A	全体的な傾向や特徴など	全体的には全国平均正答率と同程度であった。言語についての知識・理解・技能の力を問う問題に課題があり、意味を理解し適切に使えるようにしていく必要がある。	全国平均正答率との比較 同程度
	よくできた問題	相手に分かりやすいように語句を選択して話す問題は正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	文脈に即して漢字を正しく書く問題について正答率が低かった。	

国語B	全体的な傾向や特徴など	全国平均正答率をわずかに下回っていた。感じたことや自分の考えを書く問題に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的に応じて必要な情報を読みとる問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	表現の仕方について捉え、自分の考えを書く問題の正答率が低かった。	

数学A	全体的な傾向や特徴など	全体的には全国平均正答率を下回っていた。資料を活用し数学的な技能や数量や図形などについての知識・理解を問う問題に課題があり、言葉の意味を理解し適切に活用できるようにしていく必要がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	与えられた文字式の意味を、具体的な事象の中で読みとる問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	言葉の意味を理解している問題の正答率が低かった。	

数学B	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率と同程度であった。資料の活用や数学的な見方や考え方が身につけている。	全国平均正答率との比較 同程度
	よくできた問題	資料の軸向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する問題の正答率が高かった。	
	努力が必要な問題	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題の無回答率が高かった。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・家庭での学習習慣の定着を図っていくために、学習計画や具体的な目標を定め、行動に結び付ける必要がある。 ・自尊感情や将来の夢や希望をもっている生徒は全国の割合よりも高い。 ・地域や社会への関心が高く、地域行事等に積極的に参加する生徒が多い。地域との連携をさらに深めていく必要がある。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<ul style="list-style-type: none"> ・朝自習を5教科(国、数、社、理、英)で行い、国語、数学において学力サポートシステムを状況に応じて実施し、基礎学力の定着を図る。「ひまわり学習塾」を希望生徒を対象に週2回実施し、基礎学力の定着を図っている。 ・学校図書館の整備、朝読書の推進、教科による学校図書館の利用等を積極的にを行い、読書活動を活発にし、読みとる力・言葉の力を育てる。 ・各教科において、ワークシートや発問などの工夫、小テストの実施、グループ学習等の授業の充実を図る。 ・国語科において下記の取組を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・読み取る力を高める全学年読み取りテストの実施。 ・語彙力向上の取組。(対義語、類義語、漢語と和語の置換作文等) ・資料を読み取り、根拠を明確にして、自分の考えを述べる課題作文の取組。
--

② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> ・各教科において、宿題や課題を生徒に出し提出を徹底させる等教科担任と学級担任が連携し、基礎学力と家庭学習の定着を図る。 ・考査前に家庭学習計画を作成し、毎日学級担任が確認指導を行う。 ・学校便りや学校HPを通して結果分析を伝えるとともに、学年懇談会等で内容を説明し、家庭と連携し協力体制を整える。 ・PTA活動において、ノーテレビデー、ノーゲームデーの啓発を行う。
